

私たちの未来のために

香川県立観音寺第一高等学校 1年 近藤風紗

1. 序論

はじめに SNS とはソーシャル・ネットワーキング・サービスの略であり、本来の使い方としては人とのつながりをサポートするコミュニティ型の会員制のサービスだそうだ。LINE や Twitter、インスタグラムなど幅広く存在しており、世の中に便利であるものとして親しまれている。そのブームにあやかり、私も以前から利用していた。だが、私は有意義に SNS を利用できているのか。ふと疑問に思った。だからこの機会に SNS の正しい使い方を理解し、トラブルに巻き込まれないようにするための解決策を見つけていこうと考えた。

2. 本論

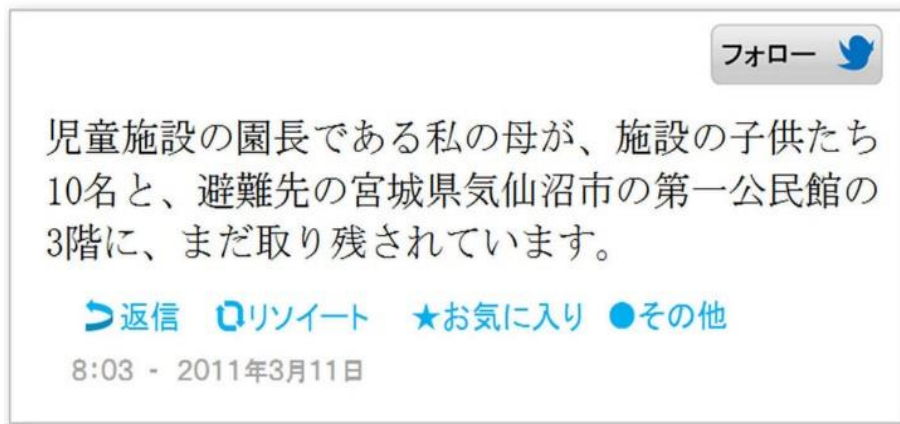
まず、SNS のメリットとして挙げられるのは次のものである。

①多数の人とネット上でつながることができる。日本だけにとどまらず、世界中とつながることができる。どんなに遠く離れていてもアプリ一つでコミュニケーションをとることができる。私も一度スカイプを使いモンゴルにいる母の友達と通話をしたことがある。約 3000 キロ離れていたとしても SNS を利用することで人とのつながりを感じることができた。

②様々な情報を得られる。今話題のニュースや流行について知るだけではなく、災害が起きた時にも利用することで命が助かることもある。例えば、2011 年に起きた東日本大震災。ある女性が息子に向けて「周りが火の海で、もうだめかもしれない」とメールで助けを求めたが、そのとき息子はイギリスにいたため、すぐ避難所へ助けに行くことはできなかった。だが、彼は母を助けるため図①のようなツイートをしたところ、あっというまに拡散され、それを知った人たちがすぐ避難所へ救助しに行った。驚くべきところはそれだけでなく、女性がいた避難所には 446 人もの人が避難していたそうだ。SNS が人と人を結び小さな子供から妊婦まで多くの命を救うことができたのだ。最近起きた、熊本地震、岡山の暴雨被害でも SNS によって救われた命があった。

これらから分かる通り、SNS が普及したことによってあらゆる場面において便利になっており情報が早く、多くの人へ届く。そのため、自然災害のときにはとても役に立ち、ときには誰かの命を救うこともあるのだ。

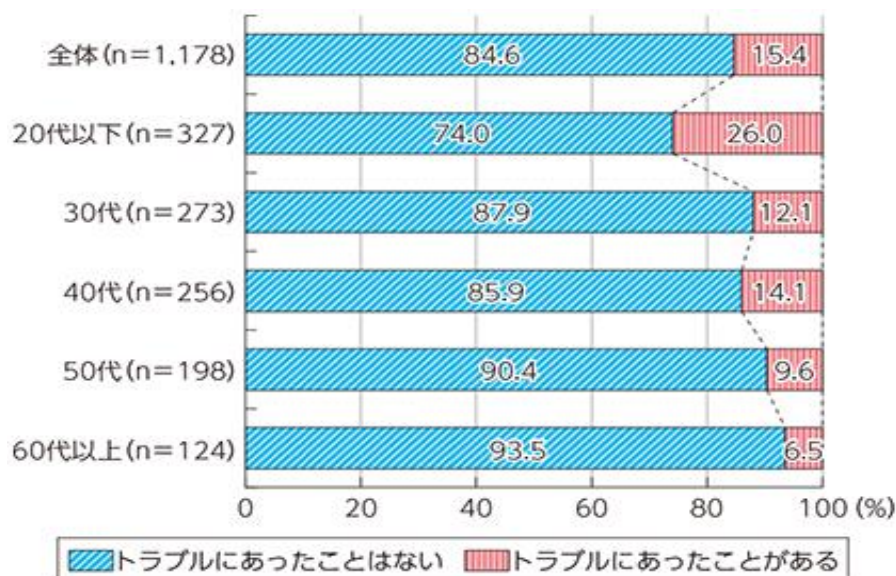
図① : 緊急時ではスマホと SNS が多くの命を救います



その反面、SNS にはデメリットも存在する。

①SNS におけるトラブルが発生する。現状を見てみると、総務省の調べから次のような資料がでてきた。

図② : SNS 上でのトラブル経験の有無



このように、「SNS を利用して何らかのトラブルにあつたことがあるか」を尋ねたところ、一番 SNS を利用している 20 代以下が最も多くトラブルにあつていることが分かった。特に学生の中ではトラブルが起こりやすいという。学生内で起こるトラブルのうち多いのはやはり、「いじめ」だった。グループトークである対象者に向けて、無視をしたりわざと悪口を書き込んだりとても卑怯な手を使っていると感じた。見えないところで好き勝手にすることは、果たして良いことなのだろうか。そのほかにも、ある男がコンビニエンスストアの冷蔵庫内で横になり、SNS での拡散によって警察沙汰になったこともあつた。これ

らから分かるように、迷惑かつ身勝手な行為をしても許されるような雰囲気が SNS 上で発生している。だから、トラブルが起きてもあまり危機感を感じていないのである。

②SNS に依存してしまう。最近の若者に多く見られており SNS を心のよりどころとして考え、スマホに夢中になっているみたいだ。心の健康がよくなったとしても、体の健康上はあまり良くなっているとは言えない。イギリスのあるアンケートでは、15 歳の若者のうち 3 人に 1 人が一日に SNS を 6 時間使っているということが分かった。長時間画面を見ることで視力の低下、何もしたくないという無気力が起こってしまうだろう。

このように SNS についてメリットもあるが、デメリットがあることが分かった。この事実をもとに、次は被害を受けないためにどうすればいいのか、被害を受けてしまったときの解決策は何なのかを探していこうと思う。

まず、SNS のトラブルに巻き込まれないためには、まず使用する目的をはっきりさせることが重要であると考えられる。間違っ使用しようとするからトラブルが起きるのではないだろうか。例えば、SNS における情報収集・共有・拡散の三つの特徴を有効に活用してみる。情報収集において大事なものは、正しい情報であるかを見極めて正確に判断することだと思ふ。発信されているすべての情報が正しいわけではないので自身の観察眼が試される。常に注意深く疑うことこそが、トラブルの被害を多く受ける 20 代以下に足りていないことなのだろう。なので、情報を集めるときには、1 つだけ情報を集めるのではなく、多数の情報を集め、分析し、確かめるべきだと思ふ。共有における SNS の有効活用は例にも挙げたとおり、災害や遭難、身元の確認など非常事態で使用するのが好ましい。これこそ、先ほどの情報収集にも通ずるところだろう。正しい情報を共有して間違っ情報を正していくべきではないだろうか。これが正しい SNS の使い方だと私は思ふ。拡散するとき、注意すべき点は何だろうか。それは個人情報情報を漏えいしないことだ。自身だけではなく、他人に関する住所、電話番号など個人を特定するものを拡散すべきではない。それに今のご時世には便利なものが増えており、CG や合成、加工など人を侮辱するにはもってこいの技術が発達してきた。そして、冷蔵庫の件のように話題性を意識した拡散が今でも多く見られるので悪い意味での話題性ではなく、いい意味での話題性を拡散すべきだと思ふ。例えば # (ハッシュタグ) をつけて拡散するおいしいグルメやおすすめの店などを紹介する分に使うことだ。それだと誰かを傷つけることなく SNS を利用できる。このように、SNS について詳しく知り、目的を考えて正しく使うべきだと思ふ。

3. 結論

今回、改めて SNS について知り、SNS における便利さと危険性は無限大にあるということが分かった。時には命を助け、時には命を落とすことだってある。私は今まで SNS を甘く見すぎていたのかもしれない。だからこんなにも多くの人が SNS によって、被害を受けていることも救われていることも知らなかった。本論でメリット・デメリットを述べたように、これを多くの人が利用していくことが知っていくことが未来へ SNS を残していくカギ

となるに違いない。良いところも悪いところもひっくるめて、これからは必ず SNS と付き合い合っていかなければならない時代になるだろう。そんなときに、自身の観察眼を頼りにしていかなければならない。観察眼をより強く正しくするために多くの経験をするのも SNS とうまく付き合い合っていく方法だと思う。2年後に迫った東京オリンピックでも SNS は最大限に活用されていくだろう。どのように変化していくのか、それは他人事ではなく、変えていくのは利用している私たちである。責任をもって SNS を利用していくことが私たちにできることなのではないのだろうか。

■参考文献

出典：<https://toyokeizai.net/articles/-/114752>

出典：<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc242230.html>

出典：<https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-43616320>